

東久留米市立東中学校 第2学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	・国語への意欲関心が低い生徒が見られた。 ・読書の習慣がなく、文章の内容を理解することに対する意欲の低い生徒がいる。	・多様な文章に触れる機会を増やし、読み味や面白さを指導していく。 ・長期休暇などで課題図書を取り組みを行う。	・ワークを活用し発展課題にも取り組ませ、単元ごとに点検する。 ・読書カードを書かせる(毎学期)
社会	・資料の読み取りやグラフの作成についての理解が浅く、資料を使って表現する力が不足している生徒が見られる。 ・提示された資料を基に、自分の考えをまとめ、言葉で説明するのが苦手な生徒が多い。	・発表の機会を増やし、教科書の資料や地図を読み取り、発表させたり、ワークシートに記入させたりする。 ・自分の考えや意見を文章にまとめさせる機会を増やすとともに、失敗を恐れずに発言させる工夫をする。	・ワークシート・レポート等で、資料の読み取りやグラフの作成を要する課題を多く設定する。(中単元に1回) ・ワークシート・レポート等で、資料を基に自分の考えを説明させる課題を多く設定する。(中単元に1回)
数学	・計算力不足のために、単純な計算問題であっても解答まで結びつけることが困難な生徒がいる。 ・問題文から課題解決に必要な内容を取り出し、数学的に処理・表現することが苦手な生徒が多い。	・計算を行う際には、省略をせず、全ての過程に関して途中式を書かせるように指導をする。 ・解決に必要な知識を確認しながら、何が分かれば数学的に処理できるかを考え、図や表をノートに書かせるようにする。	・ワークシートやノート等で、計算過程がきちんと記されているかを点検する。(毎時間・80%以上) ・思考の過程を、根拠を示しながら図や表を用いて表現できてるか、プリント等を用いて確認する。(単元ごと・60%以上)
理科	・何のために理科を学習するのかを理解していない生徒が多く、意欲的ではない生徒が複数いる。 ・科学的に思考することの大切さを理解していない生徒が複数いる。	・今学習していることが、世の中の何とつながっているのかを意識して授業をおこなう。 ・科学的な思考を必要とする設問を授業の中に多く取り入れていく。	・レポートやワークシートにおいて、学習していることの歴史的背景や身近な現象とのつながりを記載させる。 ・レポートやワークシートにおいて、結果からどのようなことが考察されるかを記載させる。
音楽	・楽曲の構成、音楽的な要素もからめて積極的に自分の思いを表現できるようにすることが課題。 ・自信がないために消極的な生徒がいる。	・構成等わかりやすく、生徒が興味を引く楽曲を用い、ワークシートを工夫して学習する。 ・良いところを指摘し合い、協力し合って取り組むことで創りあげる楽しさや達成感が自信につながる。	・ワークシートの点検を単元ごと行う。表現の工夫を必ず記入する。 ・筆の実技チェック(2学期)
美術	・学習に意欲的に楽しんで取り組むことができるが、アイデアを主体的に出すことが苦手な生徒がいる。 ・制作活動のねらいを踏まえ、造形的な視点を持って学習に取り組めるような工夫を行う。	・導入部分の工夫を行い、制作活動に入る前に生徒が自分の考えをワークシートにまとめたり、他の人の考えを共有できる活動を設ける。 ・第1学年で身に着けた能力を活用して、主題を明確にさせ、より深みのある表現方法を追求する。	・ワークシートにおける構想の段階を確認する。(各題材ごと) ・鑑賞(学期に2回) ・技能評価(各単元ごとに1~2回)
保健体育	・体を動かすことが好きな生徒が多くいるため、個々の能力に応じた目標設定ができ、授業も主体的に取り組めるような工夫を行う。 ・与えられた課題に意欲的に取り組むことができるが、その反面で振り返りをする力がやや弱い。	・学び合いの場を設け、お互いにアドバイスし生徒が主体的に考え行動する授業になるよう、学習カード等を効果的に活用する。 ・振り返り活動を通して自らの課題に気付き、グループ活動から多角的な視野で工夫する力を養う。	・学習カードやノートの点検(月1~2回) ・授業観察(毎時間) ・単元(小)テストの実施(学期に4回程度) ・学習カードやノートの点検(月1~2回)
技術	・作品見本を参考に作業手順、作業方法を理解して取り組むことが苦手な生徒が一部いる。 ・エネルギー変換を利用した作品の製作を安全に留意して取り組めるように、ラジオ・充電機の製作を通して、電気回路、回路計の使用方法について学び、安全に電気を取り扱えるようにする。	・作業記録表を毎回書かせることで、生徒が自分の時組む内容を把握し取り組んでいけるようにする。 ・作業の仕方、作業のコツなどを見せながら説明をする。	・作業行程ごとに課題の点検をする。作業記録表を毎回提出して作業内容と作業進捗を確認させながら作業方法、工具の使い方を身に付けさせる。 ・作品の進捗状況の確認を毎時間行う。 ・作業記録表(毎時間ごと) ・作業内容(行程ごと)
家庭	・ミシンやアイロンの順番待っている間、縫い方や作業手順がわからない時に作業を中断してしまう生徒がいる。 ・授業に対して興味をもち、取り組んでいるが、集中して取り組めない生徒がいる。 ・授業準備が整わない生徒がいる。	計画的に取り組めるように作業の流れを指示する。またポイントごとに段取りよく進められるように作業内容の確認をする。 ・忘れ物に対する指導として、教材の持ち帰りを禁止する。	・指示した行動を90%以上が生徒が確実に実践する。 ・忘れ物0の日、5日以上
外国語	・多くの生徒が意欲的に単語や文法などの知識や理解を深めているが、まだ定着が足りない生徒が多い。 ・多くの生徒が発表活動に意欲的に取り組んでいるが、原稿を読むだけでなく、少しでも自分の言葉で発表できるようにしていく。	・各授業内での振り返りを行うとともに、既習の内容を何度も繰り返し学習させ、丁寧に指導する。 ・苦手な生徒には補助資料を活用させて一歩ずつ、得意な生徒には原稿そのままではなく、自分の言葉で話せるように指導する。	・授業内での観察、評価(毎回の授業) ・授業プリント・ノート・ワークなどの点検(月2、3回程度) ・英語の発表活動を行う。(学期に1、2回)
道徳別の教科	・教材に対して、自身の考えを深められない生徒がいる。	・他の生徒の意見を聞く機会を設け、対話的な学びの機会を増やし、自分の考えを深められるようにする。	・1時間の授業の中に、ペアやグループでの話し合いの場面や、意見発表の場面を取り入れ、様々な考え方に触れる機会をつくる。
習得的な学	・調べ学習に対する関心は高く、タブレット端末の使用をスムーズに行える生徒が多い。しかし自分の考えをまとめたり、発表したりすることが苦手な生徒が多い。	・SDGsや校外学習の調べ学習や事後学習のまとめ、発表会を行うことで問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育むようにする。	・作成した新聞や視聴覚教材を活用した発表会を各学級で実施する。代表生徒は学年で発表を行う。